

母子保健事業の向上に関する衛生行政学的研究

分担研究報告書

分担研究者 郡 司 篤 晃

研究の目的

本分担研究においては、次のリサーチ・クエスチョンを設定し、その解答を得ることを目的として研究を実施した。

- I. 母子保健事業をサービスを向上しつつ実施するに必要な人員配置、職務分担は如何か
- II. 母子保健事業の効率的運用に有効な理論構成、人的資源活用の基本はどのようなものか
- III. 地域母子保健サービスを担当する要員自身が希望する業務配置はどのようなものであるのか

研究の方法

研究協力者と共同し、また各地の実状調査を実施して、研究目的に従った検討、取りまとめを行うため、下記の研究グループを組織し研究を行なった。

- I. 母子保健事業の向上に関する保健行政学的研究（研究チームリーダー：郡司篤晃、星旦二）
- II. 母子保健事業の効率的運用に関する研究（同：小野寺伸夫）
- III. 地域における母子保健業務要員に関する研究（同：望月弘子）

研究の結果

上記各研究班による研究成績の概要は以下の如くであった。

- I. 母子保健事業の向上に関する保健行政学的研究のうち、全国市町村での乳児健診実施状況・実施体制についての調査では、調査票の回収された3,198市町村につき検討した。乳児健診は3～4月、6月、9月を中心に市町村の52%が市町村事業として実施していた。実施場所としては市町村保健センターが過半数であった。1歳6月健診は市町村事業として93%が実施しており、場所は市町村保健センターが半数であった。3歳児健診は7%が市町村が委託を受けて実施しており、妊産婦健診が市町村事業として実施されていたのは6%であった。これらの成績から将来の方向として乳幼児健診を市町村が実施する際には現在のレベルを落とさぬ施策が必要である。

また、この事業を進める上での体制が、人口規模、出生数などとの関連でどの様にあるべき

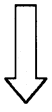
かを検討した。人口区別にみると、集団指導事業は人口規模が増加するに従って実施延べ人員数と健診にともなう受診者数が増加する。人口50万以上を除くと、人口規模が増加するに従って、集団指導1件当たりの平均所要時間が増加し、専門的な指導を要する未熟児や障害児数が増し、受診率が低下するが、人口規模がもっとも大きい市では受診率が増加する。個人指導事業の実施状況をみると、人口規模が増加するに従って受診数や専門的指導を要する児数は増すが、受診率や特別な指導を要する児の割合は一定の変化の傾向は見られない。これらに似た傾向は、新生児訪問事業、妊産婦訪問事業、未熟児訪問事業についても観察され、考察を加えた。

母子保健事業における具体的展開のプロセスとその過程での機関、職種の役割に関する研究では、今後の効率的な母子保健活動のために、5保健所管内の19市町村で行なわれている概略的な流れを調査した。母子保健事業における保健婦の全稼働時間と年間出生数及び人口との間には統計的に有意な関連を認めた。母子保健事業における保健婦の全稼働時間は、母子保健活動実績との間にも有為な関連を認めた。また、この保健婦の全稼働時間を計画、実施、評価、研修に分類すると、すべての母子保健事業稼働時間数の86.7%が事業を実施することそのものに費やされていた。市町村によるバリエーションは大きいですが、保健所からの委託業務が現在でもかなり多いこと、保健婦が中心であるが事務職の関わりも多いこと、職種別の関わりにもバリエーションがあるが、保健婦もその仕事として、より優先度の高い方向へ向けることができること、などが判明し、今後の専門職種のあり方についても有効な示唆が得られた。

(郡司、星他)

II. 母子保健事業の効率的運用については、母子保健事業自体、高齢化社会の中での新たな課題が要求され、住民に直結する施策の展開が求められている。このため、保健サービス研究の体系をふまえ、母子保健事業の背景構造、人事およびサービスの質の管理システムを検討し、効率化研究の基本概念を明らかにした。さらに、効率的な社会資源の活用と方向性について、住民要請、情報、技術、人材開発、法制度等に関する実証的研究を深めた。(小野寺他)

III. 地域における母子保健要員に関する研究としては、地域母子保健サービスシステムの中における、保健所、市町村の保健婦の業務内容、役割分担、必要要員数等についての調査をもとに検討した。保健所、市町村における母子保健活動は保健婦に負う率が高いが、保健所においても保健婦4名以下のところがあり、適切な対応が困難と考えられる実態がある。保健所と市町村の事業の相互援助は、人手不足の補いと言うより連携のためというところが多かった。老人保健法の事業は予想外に母子保健事業を圧迫していないようであった。地域担当者の立場からの要望を含めて今後のあり方を提言した。(望月他)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究の目的

本分担研究においては、次のリサーチ・クエスチョンを設定し、その解答を得ることを目的として研究を実施した。

- . 母子保健事業をサービスを向上しつつ実施するに必要な人員配置、職務分担は如何か
- . 母子保健事業の効率的運用に有効な理論構成、人的資源活用の基本はどのようなものか
- . 地域母子保健サービスを担当する要員自身が希望する業務配置はどのようなものであるのか